
星の勇者スターファイター

剣聖龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の勇者スターファイター

【Nコード】

N6859V

【作者名】

剣聖龍

【あらすじ】

謎の現象、“次元震”により、次元の壁が破壊され幾つもの世界が混ざった多次元銀河系。

そこへ来訪する強大な力を持つ悪しき覇者、それを迎え撃つ多次元銀河の勇者達。

だが、勇者達の前に更なる力を持つ敵が現れる。

その力の前に苦戦する勇者達。

だが、彼等の前に新たな勇者が、そしてもうひとつの勇者王が現れる。

登場作品紹介（前書き）

初投稿ですがよろしくお願いします！

登場作品紹介

登場作品

・ガンダムシリーズ

（G、デスティニー、劇場版OO）

・真マジンガー 衝撃！Z編・マジンカイザー 死闘！

暗黒大

將軍！

・劇場版 天元突破グレンラガン

・勇者王ガオガイガー

・勇者王ガオガイガーFINAL

・魔法少女リリカルなのはストライカーズ

・スタードライバー 輝きのタクト

・獣装機攻ダンクーガノヴァ

・超重神グラヴィオンツヴァイ

・鉄のラインバレル

・鋼鉄神ジグ

・神魂合体ゴードンナー！！・超電磁マシーン ボルテスV

・超電磁ロボ コン・バトラーV

・神羅万象チヨコ ゼクスファクター

武器、技のみ登場

ダンボール戦機

登場作品紹介（後書き）

感想など、あったらお願いします！

世界観紹介（前書き）

世界観紹介です。
かなり作品をしぼりました。

世界観紹介

世界観紹介（作品毎）

Gガンダム

- ・キャラと機体が登場。
- キャラはドモン、チボデー、ジオルジュ、サイ・サイシー、アルゴ、レイン、アレンビー。普段はオーブに居る。
- ・敵にデビルガンダムが居る。
- ・時系列は既にアニメが終了している所。

ガンダムシードデスティニー

- ・オーブが登場。それにより、アークエンジェル、エターナルはオーブに。
- また、シン、ルナマリア、ミネルバのクルーはアークエンジェル等に搭乗している。
- ・時系列はアニメが終了している所。

ガンダムOO

- ・この世界の地球が殆どのベースになっており、地上には軌道エレベーター、宇宙にはソレスタルビーイング号がある。
- ・ソレスタルビーイングはプトレマイオス2改に。刹那は帰還しており、ELSと融合しているが、見た目は変わらず。
- ・この世界の地球軍を中心に地球防衛軍が組まれている。
- ・時系列は劇場版が終了した所だが、50年は経っていない。

真マジンガー 衝撃! Z編

- ・日本に光子力研究所、くろがね屋がある。
- ・敵としてドクターヘルが居る。またバードス島がある。
- ・マジンガーZの装甲が超合金ニューZになり、マジンガー軍団が

量産されている。

・時系列はローレライ編が終了した所。

マジンカイザー 死闘！暗黒大將軍！

・登場するのは鉄也、ジユンのみ。

・機体はグレートマジンガー（真）、ビューナスA。

・マジンカイザーは登場未定。

・時系列は暗黒大將軍が侵略を始める前。

劇場版 天元突破グレンラガン

・暗黒大陸（アフリカに出現した大陸）にカミナシティを建造している。

・時系列はアンチスパイラルが出現した所。

勇者王ガオガイガー

・地上にはGアイランドシティ、宇宙にはオービットベースがある。また、地上にはヘキサゴンを修理したヘキサゴン2があり、地上本部として使用されている。

・デビビジョン5、フツヌシ、9、ミズハ、更にツクヨミ、タケハヤ、ミズハがオービットベースにある。また、イザナギ、カナヤゴ、スサノオ、アマテラスは量産され地球防衛軍が使用している。（色は灰色）

・光竜、闇竜、ジェイアーク、ルネがオービットベースに居る。またルネは改造により体の発熱が無くなっている。

・オービットベースに弾丸Xの強化版、『弾丸X2』がある。

・時系列はアニメが終了した所だが、護が旅立っていない。

その為、凱はエヴォリユダーになりつつも、引き続きスターガオガイガーに搭乗している。

ガオガイガーFINAL

- ・ジェネシックガオガイガーは出ない。

魔法少女リリカルなのはストライカーズ

- ・地球と同じ周回軌道上にミッドチルダがある。だが同じ速度で進んでいるのでぶつからない。
- ・機動六課は健在していて、ナンバースも居る。
- ・スカリエッティは脱走している。
- ・時系列はアニメが終了した所。

スタードライバー 輝きのタクト

- ・日本の沖縄付近に南十字島がある。
- ・全てのシルシが復活し、綺羅星十字団は解散、味方に。またサイバディが通常空間でも活動可能。
- ・時系列はアニメが終了した所。

ダンクーガノヴァ

- ・竜牙島があり、そこを拠点としている。
- ・時系列はアニメが終了した所だが、ドラゴンズハイヴは破壊されておらず、チームDも健在。

グラヴィオンツヴァイ

- ・ドイツに城があり、グラントルーパー隊も居る。
- ・時系列はアニメが終了した所。

鋼鉄神ジグ

- ・日本にビルドベースがある。
- ・先代ジグが仲間になっている。
- ・時系列はアニメが終了した所。

鉄のラインバレル

- ・J U D Aが日本にある。
- ・加藤機関のメンバーは地球防衛軍に。
- ・時系列はアニメが終了した所。

ゴードンナー

- ・ダンナーベースが日本にある。それ以外は無し。
- ・時系列はアニメのセカンドシーズンが終了した所だが、ゴオがサナギになっておらず、剣が生きている。

ボルテスV

- ・機体とパイロット、博士が登場。普段は光子力研究所に居る。
- ・時系列はアニメが終了した所。

コン・バトラーV

- ・機体、パイロット、博士、ロペットが登場。
- ・普段はボルテスV同様、光子力研究所に居る。
- ・時系列はアニメが終了した所。

神羅万象チヨコ ゼクスファクター

- ・アマゾンに耶馬都がある。が、外界獣が敵に居る。・火群カイは出ない。更に、鳳凰学園に継晶石は無い。
- ・時系列は第2弾が終了した所。

世界観紹介（共通）

- ・地球とミッドチルダには転送装置があるが、余程の事が無い限り使われない。・多次元銀河系の人々は自分達が光人類だという事を知っているが、闇人類や悪魔等は敵とは思っていない。（ワール

ド連合も例外では無い)

ワールド連合について

- ・多次元銀河防衛勇者隊が正式名称。

手っ取り早く言えば各世界の戦士が集まった組織。

総司令は大河幸太郎。

主に指令を出す『指令部隊』と敵と闘う『機動部隊』の2つに別れている。

全てのメンバーはDからSまでランク付けされており、それによってIDカードの色等が違う。

- ・Dランク

一言で言えば私服警備員みたいな存在。

敵などを発見したら連絡したり、市民の避難の誘導等が主な役割。避難する時には一緒に避難する。

色は灰色。

- ・Cランク

昔で言えば足軽。

リリカルなのはの魔導師等が当てはまる。

主な役割は敵に対しての牽制や足止め。

色は緑色。

- ・Bランク

ここからは機動部隊のメンバーや指令部隊のオペレーター等に割り振られる。

敵に対しての攻撃や拠点の防衛等が役割。色は青色。

- ・Aランク

指令部隊と機動部隊の中でも実力者のみに与えられるランク。
ワールド連合の主戦力。

強大な力を持つ者が多い為、リミッターを掛けられている者も居る。
色は赤色。

・Sランク

指令部隊、及び機動部隊に対して命令権を持つワールド連合の中では最高のランク。

だが今の所、Sランクは総司令の大河幸太郎のみ。

尚、リミッター等の取り外しも大河の許可がなければ出来ない。
色は黒色。

・主な敵について

敵の殆どが悪魔と手を組んでいる。

主な敵は以下の通り。

機械獣

ゾンダー（悪魔により復活）デビルガンダム（悪魔により復活）

アンチスパイラル

ガジェット

外界獣

悪魔

等、まだ増える予定です。

プロローグ

物語に出てくる世界の歴史（まだ多次元銀河系になる前の話）

太古の昔、光の神ゼウスのと闇の神ハーデスがおさめる国があった。しかし平和を望むゼウスと侵略を望むハーデスの意見の食い違いによって、遂にハーデスの国がゼウスの国に侵略を開始し、2つの国は全面戦争に入る。結末はハーデスの戦死によりゼウスの国の勝利に終わり2つの国は停戦の約束を結んだ。ゼウスの国は地上に残り『光人類』となりハーデスの息子、ウラヌスが継いだ国は侵略の罰として深い地の底へ閉じ込められ『闇人類』になった。それから時間が流れゼウスは既に亡くなっていたがその子供達が国をおさめており、いつしかそれは『ゼウス一族』と呼ばれるようになった。一方、地の底のウラヌスの国は急変していた。ウラヌスが死んだ後に停戦の約束や自分達が『闇人類』と呼ばれるようになった事の経緯を知る者がいなくなり、やがて『光人類』は自分達の為に我らを地の底へ追いやった。等の噂が出回ってしまい、やがて闇人類達は強い憎しみの力でその体を進化させ生まれた者、それは悪魔だった。悪魔達は様々なものを生み出した。進化した人類、古代文明の遺産から生まれた獣。戦闘機械を作り出す科学者等を生み出し戦力を蓄えていった。光人類に復讐する為に。

光人類と闇人類に分かれた所までが教科書等載っていて、多次元銀河系の人間などはすべて光人類。

その後、光人類は様々な次元に別れていった。

それから長い時間が経ち、突如起きた謎の現象、次元震により次元の壁が破壊され、幾つもの世界が混ざり合った多次元銀河系が誕生した。

そこへ襲来する数々の敵。始めは意見等の食い違い等から一緒に闘えずにいた戦士達。

だが彼等は、少しずつお互いを理解していき、やがてGGGをベースにした多次元銀河防衛勇者隊、通称『ワールド連合』が誕生した。ワールド連合は激闘の果てに、擬態獣、邪魔大王国、ゾンダー、セントラル、ゼラバイア、ムーンWILLを撃破、更にスカリエッテイを逮捕する事に成功した。

だが、喜びもつかの間新たな敵が襲来する。
その名を『悪魔』。

悪魔は強大な負の力を操る為、ワールド連合も苦戦を強いられた。更に他の敵もまだ残っており、激戦は未だに続いている…

第0話 始まり

「ナレーションSIDE、????」

そこは虹色だった。

虹色の光やもやといったものがそこを公成している為、辺り一面が虹色だった。そこに4人の人が居る。

その内3人はまるで天使のような服装をしており、残る1人は両手に黄金色の宝石のようなものが装着されたグローブをはめており、その者の首の両横には小人サイズの子と女の子のような者がふわふわと浮いており、更にグローブをはめた者の背後には銀のボディに青緑のラインが刻まれている戦闘機のようなものがあつた。

???

「では、頼みましたよ、捷也」

捷也

「分かってますよ」

天使のような服装をしている3人の真ん中にいる、杖を持ち、まるで大天使を思わせるような女性の天使がグローブをはめている少年、星野捷也に確認をとるように話し掛ける。

それに捷也は返事を返し、返事を返した者の両横にいる男性の天使と女性の天使に目を向けた。

捷也

「ガイネル、ソフィア。ありがとう、今まで特訓してくれて」

ガイネル

「もう会えねえ、みたいな風に言うなよ。読者の皆さんが勘違いし

ちまっじゃねえか」

捷也

「そりゃそうだね」

ソフィア

「捷也…」

男性の天使、ガイネルと会話する捷也。

そこへ女性の天使、ソフィアが捷也に不安を混ぜた視線を向ける。

捷也

「心配しないで下さい。また会えますよ」

ソフィア

「…はい。必ずですよ」

そう言つてソフィアは捷也に抱き付く。

実は、ソフィアは捷也に恋をしているのだ。

数秒間の抱擁を交わし、再び捷也は向き直る。

????

「大丈夫だぜ、捷也！俺がついてるからな！」

????

「我も居るぞ！」

捷也にそう言つたのは、捷也の首の両横に浮いている頭から一本の角が生えた男の子、龍鬼と、九本の尻尾を生やし、頭からは狐の耳を生やした女の子、イヅナだ。

感のいい読者なら分かるかもしれないが、この2人は『神羅万象チヨコ ゼクスファクター』に出てくるアイテム、『神具』に宿っている精霊のような存在、『魂獣』だ。

龍鬼は捷也の両手にはめているグローブ型神具『六道拳アスラ』の魂獣、イツナは神具ではないが、神具のコアである『魂石』の塊、『継晶石』の魂獣だ。

ちなみに、龍鬼もイツナも捷也と契約している。

捷也

「じゃあ、そろそろ行きますね」

ガインル

「気を付けてな」

ソフィア

「頑張ってください」

???

「信じた道を行きなさい、星野捷也」

捷也

「はい」

捷也は応えると首に掛かっている様々な宝石が合体したようなペンダント、『スタークリスタル』を握り締め、背後の戦闘機のコックピットに向かった。

龍鬼とイツナも捷也に続いていく。

捷也

「行こうか、ファントムガオー」

ファントムガオー

『了解しました、マスター』

銀色の戦闘機、ファントムガオーが応え、コックピットハッチが閉まる。

ファントムガオーが浮き、目の前の空間に虹色のビームを撃ち込む。すると、その空間が裂けて亜空間ゲートが発生した。そのゲートにファントムガオーが向かっていく。

ファントムガオーがゲートに入りきった時、亜空間ゲートは閉じ、元の虹色の空間に戻った。

その様子を3人は黙って見ていたが、ガイネルが口を開いた。

ガイネル

「…皮肉なもんだよな、捷也」

ソフィア

「こんなの…悲しすぎます…」

ソフィアはぼろぼろと涙を流す。

????

「ソフィア、泣いてはいけません」

ソフィア

「ラフィエル様…」

ラフィエル

「これは捷也の運命、そして捷也自身が望んだ事。我らはそれを見守り続ける義務があるのです。分かりますね？」

ソフィア

「…はい」

ソフィアはラフィエルに応え、涙を拭う。

ラフィエル

（頼みましたよ、捷也。いえ、スターファイター…）

ラフィエル、ガインル、ソフィア。この3人は『ゼウス一族』であり、ラフィエルは現在のゼウス一族の長である。

く????く

捷也

「ここか…」

格納庫のような場所に亜空間ゲートが開き、そこからファントムガオーが現れ、着陸する。

コックピットが開き、捷也が靴底を床につけ、辺りを見渡す。

捷也

「ファントム、お前は格納庫で待機していてくれ」

ファントムガオー

『了解しました』

ファントムガオーに指示を出した捷也は見渡した時に見つけたエレベーターに乗った。

どうやら行き先が決まっているのか、乗った途端にドアが閉まり、動き出す。

それが停止し、ドアが開くと何処かの高級マンションのような光景が広がっていた。

「おいおい…マジかよ」

エレベーターから出た捷也は高そうなソファーに座り込む。

捷也が見渡しても、他の家具も完全に高そうなものばかりだった。

龍鬼

「おお！？なんだこりゃ！？」

イヅナ

「やたらと豪華な部屋じゃな」

いつの間にか出てきた龍鬼とイヅナがワイワイと騒いでいた。

捷也

「あのなあ…遊びに来たんじゃ無いんだぞ、龍鬼、イヅナ」

龍鬼

「あ、すまん…つい」

イヅナ

「捷也、これからどうするのだ？」

イヅナが問い掛けると、捷也は考え込む。

捷也

「…とりあえず」

2人

「「とりあえず?」「」

それからたつぷり間を取って捷也は言った。

捷也

「寝よう」

その言葉に龍鬼とイツナはずっこけた。

捷也

「良いじゃないか。眠いし」

そう言うと、捷也は大きなあくびをした。

龍鬼

「まあ、良いか」

イツナ

「捷也と寝るのなら良いぞ」

2人も承諾し、捷也達は部屋に向かった。

〈部屋〉

捷也

「また、ここも広いこった…」

部屋までも大きかった事に、捷也は少し脱力しながらもベッドに腰掛ける。

捷也

「いや、流石に荷物の整理位はしとくか」

そう言っただ捷也は首に掛けてあるスタークリスタルに意識を集中する。

すると、スタークリスタルから虹色の光が放出され、その光はリュックと旅行カバンになった。

スタークリスタルには物体を量子変換し、収納しておく機能があるのだが、これを使えるのは捷也のみという事と、まだ他に収納してあるものがたくさん有るため無闇には使えないのだ。とりあえず捷也は旅行カバンとリュックの荷物を取り出し、部屋に置いていく。

龍鬼とイヅナも手伝ったので、わりと早く終わった。荷物の整理が終わると、捷也は寝間着に着替え、ベッドに入る。

龍鬼とイヅナも捷也を挟んで左右に入り、3人とも目を閉じた。

そして3人の意識はわりと早く沈んでいったのだった。

第0話 始まり（後書き）

これからたまに、後書きでアイテム等の紹介をしていきます。

紹介その1（神具）

アーティファクト

・神具太古の遺跡等から出てきた謎のアイテム。
剣、本、グローブといった様々な形をしている。

神具1つにつき、『魂獣』と呼ばれる存在が宿っており、魂獣と契約する事で神具の力を使えるようになる。

基本的には1人につき1つまでしか契約出来ず、契約した者しかその神具は使えない。

契約が破棄されるのは、魂獣が自ら契約破棄するか、契約した者が死亡した時のみ。

ファクター

・因使

魂獣と契約し、神具を使える者の事。

神具の能力を使用する事が出来る。

クリスタル

・魂石

神具のコアとなっている宝石のようなもの。

これに魂獣は宿っている。必ず1つはあり、魂石の数や大きさが魔力の大きさに関係している。

また、魂石には種類があり、それは以下の通り。

びゃうこ

白虎

属性は金。主に金属や地盤等を操る。魂石は透明から乳白色。

せいりゅう

青龍

属性は木。主に植物を操り、上級者は電気、風、毒を使用可能。魂石は青色。

麒麟 きりん

属性は土。主に光を操り、上級者は磁力や重力を使用可能。魂石は黄金色。

玄武 げんぶ

属性是水。主に水を操り、上級者は氷や冷気を使用可能。魂石は緑色。

朱雀 すざく

属性は火。純粹に火を操る。魂石は赤色。

魂獣 スベリッツ

神具の魂石に宿っている精霊のような存在。

魂獣が認める事によって初めて心を通わし、契約が成立する。

基本的には不定形のものが多いが、魔力が強力なものはきちんとした姿をしている。

魂獣解放 スベリッツ・バースト

魂獣の力を解放し、進化させる事。

これを行うと魂獣の姿が変化し、能力が強力になる。

魂獣武装 スベリッツ・アームズ

魂獣と神具を融合させ、契約者と合体する事。

魂獣の能力を直接使役出来る強力な姿になる事が出来る。

神具多重能力 デュアルアビリティ

神具の能力の1つ。

既に神具を契約した状態で、他の神具を契約出来る能力の事。

・せつしょうせき 継晶石魂石の塊で、紫色の宝玉のような形をしている秘宝。強力な魔力を秘めており、その魂獣と契約し、融合する事で“無”の力を司る姿になる。

神具では無い為、神具多重能力が無くても契約出来る。

・ゼクスファクター

継晶石の魂獣と融合し、“無”の力を司る姿。
だが、その力は人によって千差万別である。

次回予告も行います

次回

第1話 謎の欠片
お楽しみに！

『スターガオガイガー』

これが勝利の鍵だ！

第1話 謎の欠片

「捷也SIDE」

異次元ルーム（この部屋の名前）に来てから2週間が経った。

この異次元ルームの設備にはかなり高性能なコンピュータ等も揃っていたので、この所はワールド連合を観察していた。

その途中で、アメリカ、中国、ドイツで保管していた謎の物体、通称『Qパーツ』が何者かによって奪われた事を僕は知った。

捷也

「…多分バイオネットだろうな」

椅子に座りながら呟く。

イヅナ

「どうするのだ、捷也？そのQパーツとやらはバイオネットが3つも持っており、最後の一個はワールド連合の地上本部にあるのだから？」

捷也

「いや、ワールド連合はQパーツを今まで奪われた事から、最後のQパーツを地上本部から宇宙のオービットベースに搬送するみたいなんだ。でも恐らくバイオネットはそこを狙って来る」

龍鬼

「でもワールド連合も黙って見てる訳ないだろ？」

捷也

「恐らく全ての機動部隊で護衛をするだろうけど、もし敵が悪魔と

手を組んでいたら…」

そこで捷也は言動を止める。

イツナ

「で？結局どうするのだ？」

捷也

「とりあえず、様子見には行く。もし悪魔が出たらその時は闘うけどね」

龍鬼

「ワールド連合には会わないのか？」

捷也

「まだいいさ。こんな早期に手の内を見せる訳にはいかないからな。とりあえず今は情報を集めるか敵に備えて訓練をする位しかない」

そう言つて捷也は立ち上がり、格納庫へと続くエレベーターに龍鬼とイツナと共に向かつていった。

↓格納庫↓

格納庫に降りた3人はファントムガオーに歩み寄る。だがファントムガオーの横には青緑のロケット、両翼に筒のようなものを搭載したステルス戦闘機、フィンが付いたドリルが2つ搭載された戦車といった捷也が来た時は無かった3つのマシンがあった。

捷也

「ファントム。ガオーマシンの様子は？」

ファントムガオーに歩み寄った捷也がファントムガオーに問い掛ける。

ファントムガオー

『3機とも特に問題ありません、マスター。何時でも実戦可能です』

その問い掛けをファントムガオーが淡々と答える。

捷也

「そうか。なら何時も通りシミュレーターを起動してくれ」

ファントムガオー

『了解しました』

捷也はファントムガオーのコックピットに入り、ファントムガオーはシミュレーターを起動した。

（30分後）

シミュレーターを終えた捷也がコックピットから降りる。

捷也

「よし、訓練終了。ほんじゃ後は暇だしDVDでも見るか」

龍鬼

「俺は今日はイナ。マ。イレ。ンが見たいな！必殺技がカッコいいし！」

イヅナ

「我は。カデ。ー大賞が見たいのう！あの笑いはたまらん！」

捷也

「僕は…イ。フィ。ット。トラ。スにしようかな」

そう言いながら僕達はエレベーターにのって移動した。

（1週間後）

1週間経った今日は、ワールド連合がQパーツをオービットベースに搬送する日となった。

今、僕は格納庫で発進準備に入っていた。

捷也

「よし、行くぞ！フォームアップ！エレメントナイト！！」

スタークリスタルを握り、僕は叫んだ。

すると、スタークリスタルが輝き、次の瞬間、僕の体は白を基調とした騎士のような鎧を纏っていた。

これが僕の闘う時の姿、その名を『エレメントナイトフォーム』。

この姿の特徴は“エレメント”の名の如く火や雷、氷といった様々な属性を操る事が出来る事だ。それにより特定の属性に特化した姿になる事も可能だ。

武器は属性を操る剣『エレメントソード』、普段は左腕に格納されている弓、『エレメントアロー』。

エレメントアローは弓だけを展開し、属性の矢を撃ち出す事が出来る武器で、いちいち矢を引かなくても、矢を展開し、撃ち出すのは

僕の意志で出来るので非常に便利な武器だ。

後はスタークリスタルに量子変換されている武器と言った所だ。

（イヅナと龍鬼は継晶石とアスラに戻り、スタークリスタルに量子変換されている）

エレメントナイトフォームになった僕はファントムガオーのコックピットに乗り込んだ。

捷也

「よし、異次元カタパルト、展開」

ファントムガオー

『了解』

そう言うところ格納庫が変形してカタパルトになり、ファントムガオーの下で床が変形して射出用の台座となり、前方に異次元のゲートが形成された。

ファントムガオー

『進路クリアー、オールグリーン。発進準備、完了』

捷也

「星野捷也、ファントムガオー、行きます！」

その声と共にファントムガオーを乗せた台座が勢い良く滑り出し、ファントムガオーが射出される。

そしてファントムガオーは異次元ゲートに突入し、格納庫から姿を消した。

（捷也SIDE OUT）

くナレーションSIDE、Gアイランドシティ」

ここ、Gアイランドシティの中心部にあるベイタワー基地の海中部分にあるワールド連合の地上本部、『ヘキサゴン2』から最後のQパーツを乗せたコンテナが本部であるオービットベースに搭載されているディビジョン艦の1つ、ツクヨミに運び込まれようとしていた。

ベイタワー基地の周囲の地上では多次元銀河系から遠く離れた『三重連太陽系』の『緑の星』で作られた人の“勇氣”を力に変える宝石、『Gストーン』で稼動する『最強勇者ロボ軍団』を始めとするスーパーロボットが、空中には人型の機体、『MS』や魔法を使う者達が飛び交い、Qパーツを守るべく目を光らせていた。その他にも警備員等が多数配置されている。

その中の1人が見回りをしていた時、突然物陰に引き摺り込まれ、“ドスッ”という鈍い音が響く。

そして数秒後、物陰からはその警備員の服装をした者が出てきた。その者はQパーツが積み込まれたコンテナに近付いていく。

警備員

「おい、お前。何をしている？持ち場はどうした？」

コンテナの周りの警備員が訪ねる。

???

「いや、少し伝える事がありましたね」

警備員

「なんだ？」

???

「Qパーツは頂きますよ」

そう言つて警備員の鳩尾に拳を喰らわせ、気絶させる。

そして懷から爆弾を取り出してピンを抜き、それをコンテナに投げ付けた。

その次の瞬間、爆弾が炸裂し、爆発が起こった。

???

「な、なんだ!？」

???

「まさか、あいつらが!？」

その爆発に気付いたのは金色の鎧を纏った超進化人類“エヴォリユダー”に進化し、勇者王、ガオガイガーのパイロット、獅子王凱。そして凱の親戚で、フランスの対特殊犯罪組織『シャッセル』のサイボーグ、ルネ・カーディフ・獅子王だ。

凱とルネは爆発があつた方向へ走つて行つた。

〈爆発地点〉

???

「よいしょと。少し火薬が多すぎましたかねえ」

爆弾を投げた者は先程の爆風で奪った服が吹き飛ばされ、その体はまるで人間の骨をロボットにしたような体をしていた。
その者は瓦礫の中から黒い物体、Qパーツを拾い上げる。

ルネ

「コンテナを爆破したのはあんたかい!？」

凱

「Qパーツを離せ!」

そこへ右手に翡翠色の短剣、“ウィルナイフ”を構えた凱と両手にマシンガンを持ったルネが駆け付けた。

???

「おやおや、貴方達でしたか。GGGの勇者王とシャッセールの子猫ちゃん」

そう言つて振り向いた者の姿を見た2人は驚愕した。

凱

「お前は…ギムレット!」

凱とルネはその者、ギムレットを知っていた。

ギムレットは国際犯罪組織『バイオネット』の幹部であり、以前、香港で闘った事があったからだ。

ギムレット

「お久しぶり、と言いたい所ですが、残念ながら今は貴殿方に構っている暇はありません。ほな、さいなら」

ギムレットがQパーツを抱えて逃げようとするが、それを巨大な黒い腕が弾き飛ばした。

ギムレット

「あれええええ！」

ギムレットは吹っ飛ばされ、Qパーツを離す。

そのQパーツはルネがキャッチした。

???

「行かせないぜ！」

ギムレットを弾き飛ばした腕の正体、それは全身を不滅の超合金ニ
ューズで固め、“神にも悪魔にもなれる”ロボット、鉄の城こと『
マジンガーZ』。

その操縦者はマジンガーZを製作した兜十蔵博士の孫、兜甲児だ。

ギムレット

「マジンガーZ……邪魔をするとは、いけませんねえ」

???

「マジンガーZだけでは無いぞ！」

ギムレット

「む！？」

ギムレットが声が響いた方向に視線を向けると、マジンガーZの兄弟機、偉大なる勇者こと『グレートマジンガー』が、その隣には超電磁を操る合体ロボ、『コン・バトラーV』と『ボルテスV』が、

反対側には磁石の力で合体し、銅鐸の力を操るロボット、『鋼鉄ジグ』と先代ジグこと『磁偉具』が、その隣には“野性”の力で闘い、地球全ての生き物のデータを保存したロボット、『ダンクーガノヴァ』がギムレットを取り囲むように佇んでおり、その後ろや上空にも他の起動部隊が展開していた。

???

『お前らが何を企んでいるかは知らんがこの偉大なる勇者、グレートマジンガーは黙っていない!』

???

『バイオネットの好きにはさせねえぜ!』

???

『大人しくお縄を頂戴して貰おうか!』

???

『ぶっ潰してやるぜ、ガイコツ野郎!』

???

『あたし達からは逃げられないわよ!』

上から順に、グレートマジンガーのパイロット、剣鉄也、コン・バトラーVのメインパイロット、葵豹馬、ボルテスVのメインパイロット、剛健一、鋼鉄ジグのパイロット、草薙剣児、ダンクーガノヴァのメインパイロット、飛鷹葵である。

ギムレット

「……クックック……」

ルネ

「何が可笑しい！」

ギムレット

「私達バイオネットの狙いがQパーツだけでも思ってたのですか？」

凱

「なに！？まさか！？」

その瞬間、Gアイランドシティの各地で爆発が起こった。

各地には緑色のカラーリングで、左肩にはニードルが付いたシールドを装備し、右手にはビーム突撃銃を持ち、丸い頭部にはピンク色の1つ目、モノアイを灯らせたMS、『ザクウォーリア』多数が破壊活動を行っていた。

ルネ

「バイオネットのMS…！」

バイオネットは世界中の紛争地域に最新鋭の武器等を密売する事から別名『死の商人』とも言われている。

ギムレット

「良いんですか？放っておいたら貴殿方の街が破壊されてしまいませんか？」

ルネ

「この…ド外道があああああ！」

凱

「ルネ！」

ルネは激昂してマシンガンをギムレットに向け、乱射する。
だがギムレットはそれをジャンプしてかわし、更に背後からトゲの付いた車輪のようなものに捕まり、街の方へ跳び跳ねていった。

凱

「しまった！」

甲児

『凱さん！ザクは俺達がなんとかする！』

豹馬

『早くあいつを追い掛けてくれ！』

凱

「分かった！聞こえるか皆！俺達はギムレットを追い掛けるぞ！」

??? ?

『了解！』

凱は通信装置を使って勇者ロボ軍団に指示を出し、ルネと共に街へ向かった。

その頃ギムレットはトゲ車輪に乗り、更に街の至るところから現れたトゲ車輪と共に市街地を駆け回っていた。
そこへ青と赤のビーム、竜巻、雷、メーザー砲、ミサイルが撃ち込

まれる。

だがギムレットとトゲ車輪は細かく動いてそれを回避した。

ギムレット

「この攻撃は…勇者ロボですね」

ギムレットの言う通りだった。

青と赤のビームはクレーン車とはしご車に変形する竜型ビークルロボ、『氷竜』と『炎竜』がライフルから放たれたもの。

竜巻と雷は中国製龍型ビークルロボ、『風龍』と『雷龍』のミキサ―と雷龍が放ったもの。

メーザー砲とミサイルはフランス製竜型ビークルロボ、『光竜』と『闇竜』のメーザー砲とミサイルコンテナから放たれたものだった。更にそこへ黄色のブルメランのようなものが2つ投げ付けられる。

それは忍者のようなマルチロボ、『ボルフォッグ』が投稿したブルメラン、“シルバームーン”だ。

だがギムレットはそれすら小刻みに動いてかわした。投稿されたシルバームーンが道路に突き刺さる。

凱

「観念しろ！ギムレット！」

更に現れたのは凱の相棒であり、緑の星で製造されたメカライオンとフュージョンし人型に変形したメカノイド、『ガイガー』だ。

腰のブースターを噴かしてガイガーが道路に着地する。

見ると、ギムレットの周囲は勇者ロボ軍団によって包囲されていた。

ギムレット

「ふむ…これは少し予定変更ですね」

そう言つてギムレットとトゲ車輪が跳び跳ねる。

そして周囲から新たに3つのトゲ車輪がギムレットに向かっていく。

ボルフォッグ

「あれは！凱機動隊長！あの車輪を見て下さい！」

ボルフォッグが3つのトゲ車輪を見るよう、凱に促す。

凱が見ると、3つのトゲ車輪には黒い物体が1つずつ装着されていた。

凱

「あれは！各国から奪われたQパーツ！？」

氷竜

「隊長！あれを！」

今度は氷竜に呼ばれ、氷竜が指差した方向を見ると、先程ルネがキヤッチし、引き渡した筈のQパーツがまるで残りのQパーツの元へ向かうように飛んでいった。

そしてギムレットの乗るトゲ車輪の図上に集まった4つのQパーツは合体し、星の形をした物体となった。

凱

「なんだあれは！？」

ギムレット

「折角なので教えてあげましょう。これは『パスキューマシン』」

凱

「パスキューマシン？なんだそれは！？」

ギムレット

「貴方が知る必要はありません。何故なら、今から死ぬのですから！！」

そう言うってギムレットはパスキューマシンを頭上の装置に取り付ける。

ギムレット

「この品は有向的に使わせて貰いますよ」

そう言うのと、ギムレットのトゲ車輪の周りが銀色の膜のようなもので覆われ、銀色の球体ようになる。

更にギムレットの周りにいたトゲ車輪がまるで蛇のような形態になり、その蛇が針金人間のようになり頭部の部分に銀色の球体が合体し、そこへトゲ車輪が巻き付いて1つ目の頭部となった。

ギムレット

「ギムレットアバンアンプルー！！」

風龍

「合体してロボットになった！？」

雷龍

「マジかよ！？」

勇者ロボ軍団が驚愕している間にギムレットは既に次の行動に移っていた。

ギムレット

「更に！真の姿をとくとご覧あれ！」

ギムレットアバンアンプルーレが飛び上がり、そこへ街の至る所から多数のトゲ車輪が現れ、アバンアンプルーレに巻き付いていく。それによりアバンアンプルーレの姿は針金人間のような貧相な姿から白いボディのがつしりとした姿になっていた。

ギムレット

「ギムレット・アンプルーレ！！」

真の姿になったギムレットが市街地に降り立つ。

凱

「あの姿…ガイガーのままじゃ勝てる確率は薄い…だったら、ガオーマシン！！」

ギムレットの姿を見た凱が叫ぶと、上空から両側に巨大なブースターを装備したステルス戦闘機型の『ステルスガオー2』が飛来し、Gアイランドシティの鉄道路線を通って新幹線型の『ライナーガオー』がガイガーの付近の線路に駆け付け、ガイガーの背後の道路からは巨大なドリルを2つ付けた戦車型の『ドリルガオー』が道路をドリルで突き破って現れた。

（オービットベース、メインオーダールーム）
宇宙にあるワールド連合の本部、オービットベース。その司令室、メインオーダールームのコンピューターにガイガーからの『ファイ

ナルフュージョン』要請のシグナルが届く。

それに気付いたのはオペレーターである水色の髪に褐色の肌の女性、パピヨン・ノワールだ。

パピヨン

「総司令、ガイガーからファイナルフュージョン要請のシグナルが届いています」

パピヨンが後ろに立ち、モニターを凝視している金髪の男性、ワールド連合の総司令官、大河幸太郎にガイガーからシグナルが届いた事を報告する。

大河

「よし！ファイナルフュージョン！承認！！」

大河が叫びながら承認し、承認した事をパピヨンがキーボードを操作してそれは電波となって送信された。

「Gアイランドシティ、上空、ツクヨミ」

Gアイランドシティの上空に待機しているデイビジョン艦、『ツクヨミ』にファイナルフュージョンが承認された事が届いた。

???

「おっし！卯都木！」

それを確認し、凱の恋人でありオペレーターでもある女性、卯都木命に指示を飛ばしたのは作戦参謀の火麻激だ。

命

「了解！ファイナルフュージョン！」

それを承った命がキーボードを操作する。

命

「プログラム！ドラァアイブ！！」

その声と共に命はキーボードの横のカバーに覆われているボタンを上のカバーごと叩き割り、押した。

～戦闘区域～

凱

「よっしゃあ！」

ファイナルフュージョンの許可が下りた事を確認した凱が腰のブースターを噴かし、舞い上がった。

凱

「ファイナル！フウウウジョオオオオオン！」

ガイガーの腰から電磁竜巻が発生し、その中に3機のガオーマシンが突っ込んだ。

ギムレット

「いけませんねえ…」

それを見たギムレットが身構えたが、勇者ロボ軍団がその前に立ち塞がった。

炎竜

「やらせはしねえぜ！」

闇竜

「炎竜兄様の言う通りです！」

光竜

「ガイガーの邪魔はさせないんだから！」

葵

『炎竜達の言う通りよ！』

更にギムレット・アンプルーレの周囲にマジンガーズ、グレートマジンガー、コン・バトラーV、ボルテスV、鋼鉄ジーク、ダンクーガノヴァが降り立った。

ギムレット

「まさか！もうザクを全滅させたのですか！？」

剣児

『へっ！あの程度で俺達を止められると思ったのかよ！』

剣児が鼻を鳴らしながら答える。

その間に電磁竜巻の中から両足にドリルガオー、両肩にライナーガ

オー、背部にステルスガオー2が合体し、兜のようなものを被った頭部となっているガイガー、いや、勇者王『ガオガイガー』が姿を現した。

凱

「ガオ！ガイッ！ガアアアアッ！！」

合体し、スターガオガイガーが降り立ち、ギムレット・アンブルーレと対峙した。

（ナレーションSIDE OUT）

（捷也SIDE）

今僕はGアイランドシティの上空に待機し、様子を見ている。ファントムガオーは特殊光学迷彩『ファントムミラーージュ』を展開している為、周りからは見えない。

捷也

「ガオガイガーに合体して対抗したか…」

モニターを見ながら僕は呟く。

ファントムガオー

『マスター、如何致しましょう？』

捷也

「まだ待機だ。もう少し様子を見る」

ファントムガオー
『了解』

そして僕はモニターに視線を戻した。

第1話 謎の欠片（後書き）

次回予告

第2話 降臨！もうひとつの勇者王！
お楽しみに！

『ガオファイガー』
これが勝利の鍵だ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6859v/>

星の勇者スターファイター

2011年12月3日21時51分発行